本間賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No.74

令和8年 川崎市議会 第3回定例会報告

8月31日から10月13日までの44日間の会期にて、令和8年川崎市議会第3回定例会が開催されました。

例年、当時期の定例会は前年度決算について重点的に議論を行うことから**「決算議会」**とも呼ばれ、**「決算審査特別委員会」**が設置され、分科会方式による審査を経るため、年4回開催される定例会の内、最も長い会期となっています。

本間ケンジロウは、決算審査特別委員会において、副委員長を拝命し、議事進行に務めました。

一方、今定例会は、決算議案に加え、水道料金、バス乗車料金や公共施設利用料など来年度から料金改定される議案も並行して審査し、代表質問、各常任委員会において活発な議論が行われました。

本間ケンジロウは、我が会派の代表質問に立ち、本年7月の熊本地震において発生した**「事故から得た教訓と本市での対応」**、市内で最も訪日観光客の多い川崎駅周辺にて実施した**「観光施策におけるデジタルを活用した情報発信」**、将来の本市の発展の中核を担う臨海部における**「世界に誇れる人材育成プロジェクト」**、近年増加傾向にある犯罪発生を踏まえた**「更生保護に関する施策」**、市境を越えた保育施策の必要性を鑑みた**「東京都との広域保育連携」**、我が会派が長年取り組んできた**「県立支援学校おける医療的ケア児の通学支援」**、市長公約に挙げられた**「高等専門学校の新設」**と併せて進められている**「市立高等学校の改革」**、我が会派が検討を進める**「遠隔診療と対面診療による効果的な医療システムの考え方」**、景観や農業に甚大な被害をもたらす**「クビアカツヤカミキリへの対応」**、次の時代を見据えたエネルギー施策として**「太陽光パネルのリサイクル」「国におけるペロブスカイト太陽電池の社会実装モデルの創出に向けた導入支援事業」**などにも言及し、議案を含め、市政課題を網羅した32項目の質問、提言を行いました。

32年ぶりの水道料金値上げ

自民党市議団のリーダーシップにより、市民生活への影響を抑制する対応が盛り込まれる

本年5月に改定率が示されて以降、自民党市議団副団長を務める**本間ケンジロウ**は他会派や行政当局との調整などに努め、自民党が中心となって、市民生活への影響を抑制するよう行政に求めてきました。

7月下旬、昨年度の決算概況を受け、最新の水道事業の財政状況を踏まえ、自民党をはじめとする主要4会派で市長に直接、水道・下水道料金の改定率引き下げと激変緩和措置の検討、下水道料金改定の延期、多量使用者への支援、改定までの適切な広報・周知の4項目を要望しました。

その結果、水道料金の改定率は当初の平均20%台前半から平均22%、令和9年度は激変緩和措置により平均11%とする。一定の水量帯に達する世帯は改定率を低減する。下水道料金の改定を令和10年度以降とする議案が提出されました。

わが会派は、要望を一部反映した議案は評価しつつも、事業者への減免・支援措置が未定であること、市民の認知度も低いことから、 附帯決議を申し入れ、「料金改定の影響が極めて大きい幼稚園、保育園、認定こども園等や各種業界について、新たな減免措置や支援措置等を検討し、必要な措置を講じること」「料金改定については、市民及び各種業界等へ説明会を継続して実施するなど、丁寧な説明を行い、引き続き一層の周知、広報に努めること」とした附帯決議は賛成多数で可決され、議案は成立しました。

ツナジロウのひとこと

市民生活への影響を最小限に抑えながら、
安全で持続可能な水道事業を実現することが一番大切。



『未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。』イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ